

令和 5 年度 学校教育自己診断の結果と分析[令和5年 12 月実施分]

学校生活をより充実したものとするため、生徒、保護者の皆様と教職員に対して、学校教育活動や取組みに関するアンケート「学校教育自己診断」を 12 月中旬に実施。

【今年度の傾向】

質問項目は生徒 44、保護者 34、教職員 46。うち肯定的回答の割合が前年度より増加した項目は、生徒 22(50.0%)、保護者 19(55.9%)、教職員 33(71.7%)であった。教職員については概ね前年度より良い結果になっているが、生徒については前年度並みか若干下がっている項目が目立った。特に、学習指導に係る多くの項目で目標値に届かなかった結果を真摯に受け止め、現状の把握と分析、課題の抽出と対策の具現化を行い、真に生徒が「今宮で学んでよかった」と実感できるような教育実践を計画的に進めることが肝要である。

【学校満足度】

生徒①、保護者①ともに「今宮総合学科で学んでよかった」は過去5年間で年々増加し、今年度も約90%の高い水準を維持している。また、生徒②「学校生活や学校行事においても総合学科らしさを感じることができた」は87.2%[R4:84.0%]とこの5年間で過去最高の肯定的回答が得られた。前年度までの3年間はコロナ禍で様々な活動が制限されたが、引き続き感染防止対策に努めながら、徐々にコロナ禍前の取組みが再開できた年度になった。そのひとつとして、11月に姉妹校の台湾臺東女子高級中學の生徒たちが来校し、生徒主体の交流会等を盛大に行うことができた。生徒③⑨、保護者④「本校は国際交流に力を入れている」は生徒90.0%[R4:62.0%]、保護者84.7%[R4:50.6%]とその成果が大きく表れている。次年度はアメリカの姉妹校との交流再開の予定もあり、さらに生徒が主役の国際交流活動を進めていく。また、生徒④③、保護者⑤「学校の施設・設備に満足できた」は生徒83.4%(R4:79.8%)、保護者77.9%(R4:75.1%)と前年度より上昇し、概ね高い満足度が得られている。今年度トイレの全面洋式化の他、物理実験室の空調設備設置、屋上プール屋根の緊急随契補修等の工事が行われ、生徒が安全で安心して学べる環境整備に努めているところである。1月には大阪府のGIGAハイスクール構想により全普通教室への電子黒板設置工事が行われ、最新のICT機器を活用したより効果的な授業づくりが期待できる。

【学習・進路指導等】

生徒⑩「先生方は教え方に工夫をするなど授業に熱心だった」は86.4%[R4:84.3%]と、5年前[R1]の69.3%から5年連続で大きく上昇した。また、生徒⑤「学ぶことの意味について考え、授業を大切にするようになった」も81.6%[R4:81.7%]で、5年前[R1]の71.3%から上昇しているが、今年度は上げ止まりの感がある。他に生徒⑭「自分は今宮総合学科で学んで自分の進路選択ができた」81.4%[R4:77.5%]も前年度より上昇しているが、学習・進路指導に関する他の項目を見ても概ね上げ止まりの傾向は拭えず、授業を中心に据えた学びの営みが、生徒自身の職業観の醸成、進路選択や進路実現に向けた学習成果に実感として繋がりにくさを感じている生徒が一定の割合で存在していると考え。原因を究明し、入学時より具体的な対策を講じる必要がある。生徒③「自分は今宮高校で学んで人として成長した」87.7%[R4:87.3%]、生徒⑯「大学について理解することができた」88.4%[R4:88.0%]、生徒⑰「働くことの意味や職業について考え理解が深まった」84.0%[R4:84.3%]、生徒⑱「自分の適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的になった」81.7%[R4:80.3%]。生徒の自学自習の習慣づけや、授業等で学んだ内容の発展的学習を生徒が

自立して進めることについては依然低調であり、課題を出して成績に反映させるなどの負荷をかけないと継続した学習ができない生徒が多数いる状況を打破して、高い志を持って学び続ける生徒集団をつくる効果的な仕掛けを考えたい。生徒⑧、保護者⑧「家庭学習を毎日した」生徒 36.0%〔R4:34.7%〕、保護者 38.7%〔R4:36.5%〕。生徒⑥、保護者⑥「学校の授業・補講等だけで進路実現に必要な力が付いた」生徒 66.6%〔R4:67.8%〕、保護者 38.2%〔R4:42.5%〕。総合学科の肝の部分である科目選択指導についても上げ止まりの傾向が見られた。生徒⑦「選択科目の決定についてのガイダンスは十分であった」85.6%〔R4:89.1%〕、生徒⑨「進路希望や科目選択の指導はきめ細かく適切に行われた」87.1%〔R4:87.4%〕、生徒⑩「科目選択は自分の進路選択とのつながりに満足している」79.6%〔R4:84.5%〕、生徒⑪「選択した科目については選びたい科目を選べた」85.9%〔R4:82.7%〕。系列に係る教育課程編成上の制限や教員数の問題などがあり、もともと全生徒の希望を叶えるものではないが、次代を先取りした新たな学校設定科目の設定や、生徒のニーズに合致したカリキュラム・マネジメントを進めるように現在専門委員会で検討しているところである。進路関係の情報提供については、生徒⑨「学校は将来を考えたり調べたりするきっかけや情報を提供している」87.9%〔R4:86.7%〕、生徒⑩「学校には進路指導室や進路相談室など将来を考えたり調べたりする設備や環境が整っている」83.9%〔R4:84.4%〕、保護者⑪「学校は進路についての情報をよく知らせてくれた」73.7%〔R4:72.8%〕と、同様に停滞している。進路指導室が普通教室から離れた1階の奥まった場所にあるため、生徒が気軽に相談に訪れにくいこともあろうが、進路指導部の教員に留まらず、全教員が進路選択や目標設定、進路実現に向けたマインドや具体的な方策について折に触れて伝えていくこと、すなわち、教科指導に進路指導を絡ませながら生徒一人ひとりの進路指導に対して全教員の熱量を上げて組織的に関わっていく体制づくりが求められていると分析する。

【探究的学習・人権教育の推進等】

本校の1年次「産業社会と人間」及び2、3年次「総合的な学習の時間」は、3年間で5単位実施している。その中で進路ガイダンスやクラスづくりに関わることの時間も確保しているが、「探究的学習」及び「人権教育」を柱とした学びを展開している。1、2年はグループで、3年は個人でテーマを決めて探究学習を行い、それぞれ12月～1月にクラス予選を経て学年全体で発表会を実施している。今年度は3年で特にプレゼン能力の伸長が認められ、また、2年では地域の様々な仕事や活動をされている方とアポイントを取って出向き、指導・助言を仰ぐ等行い、1/11(木)の発表会では浪速区長をはじめとする20名の外部の方を審査員としてお招きして実施した。この調査はこれら学年発表会が実施される前になされたので、発表会後の数値はもう少し高くなると予想されるが、概ね高い肯定的回答が得られている。シラバスをさらにブラッシュアップして、次代を担う秀でた思考力・判断力・表現力を備えたクリエイティブな人材育成に努めたい。生徒⑫「この学校の授業では自分の考えをまとめたり発表したりすることがよくあった」93.1%〔R4:94.4%〕、生徒⑬「課題研究では探究的な学びができた」84.1%〔R4:83.9%〕、生徒⑭「課題研究では研究や発表など創意工夫できる機会を豊富にもつことができた」94.1%〔R4:95.4%〕。社会における様々な人権問題について外部講師を招くなど積極的に進めてきた。また、4年前に共生推進教室設置校となり、インクルーシブ教育をリードする実践校としての取組みを進めているところである。一朝一夕にはいかないが、本校の重点項目である「共生社会をリードする人材育成」を果たすべく心豊かな人権感覚を育成する教育を継続的に進める。生徒⑮「命の大切さや社会のルール、人権を尊重することの大切さについて学ぶ機会があった」91.8%〔R4:91.8%〕、生徒⑯「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった」85.4%〔R4:85.6%〕。また、その際、生徒に対して本質的な内容に触れた指導が行われるようにまず教職員に対する研修を十分に行う必要がある。人権教育推進委員会を軸に今年度はその取組みの

成果が一定得られた。教職員③「人権教育に関する様々な課題や指導方法について全教職員で話し合っている」84.3%〔R4:70.9%〕

【生徒指導等】

生徒③「自分は互いに認め合い協力して良いクラスづくりを進めることができた」85.4%〔R4:85.1%〕、生徒②「学校行事やホームルーム活動は活発で積極的に関わっていた」83.1%〔R4:82.6%〕、生徒⑤「学校はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」88.2%〔R4:87.6%〕、生徒③「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」80.8%〔82.0%〕。教職員のサポートを受けながら、概ね生徒が主体的に働いて良好な人間関係やクラスづくりが進められていることが伺える。生徒③「学校における生徒指導等や遅刻防止、服装の規律保持などの指導には納得できる」65.5%〔R4:73.8%〕、生徒③「自分は積極的にルールの順守やマナーの向上に努めた」92.7%〔R4:91.0%〕。今年度、予め生徒にアナウンスしたうえではあるが遅刻の定義を厳格化し、電車の僅かな遅延(10分以内)を正当な理由から除したため納得感が下がっているが、多数の生徒はルールを守って生活している。保護者は8割以上の支持が得られており、生徒一人ひとりの内面に切り込みながら、生徒に迎合することなく今後も粘り強い指導を進めていく。保護者⑩「学校は生徒に対する生活指導や遅刻防止、服装の規律保持などによく取り組んでいた」83.1%〔R4:83.5%〕

【行事・部活動・コミュニケーション】

生徒④「自分は文化祭や体育祭などの学校行事に積極的に参加した」90.7%〔89.5%〕、保護者⑫「子どもは文化祭・体育祭・宿泊行事などの学校行事に積極的に参加していた」91.2%〔R4:93.7%〕と、生徒、保護者ともに90%を超える高い数値を維持している。文化祭ではコロナ禍が明け、生徒の模擬店やPTA企画が活発に行われ盛況であった。生徒⑥「この1年間、自分は部活動を熱心に取り組んだ」70.2%〔R4:72.4%〕、保護者⑭「この学校の部活動は活発であった」87.5%〔R4:81.6%〕生徒⑤、保護者⑬「本校は部活動基本方針に沿って部活動が行われている」生徒83.3%〔R4:83.4%〕、保護者86.4%〔R4:85.0%〕と、部活動においても基本方針に沿って7割を超える生徒が熱心に取り組んでいることが伺える。また、保護者との連絡や連携については、多くの項目で肯定的回答の割合が上昇した。保護者進路説明会をオンデマンド配信する等の取り組みや、学年や分掌単位でホームページや学校支援クラウドサービス等を利用して、連絡事項の伝達や教育の取り組みをきめ細やかに発信してきたことの成果が認められる。また、授業公開などコロナ禍でできていなかった行事を再開したが、今後は保護者が直接来校する機会を増やすとともに、さらにきめ細やかな情報発信に努め、ありのままの今宮高校を発信していきたい。保護者⑪「学校は進路についての情報をよく知らせてくれた」86.4%〔R4:85.0%〕、保護者⑮「科目選択の決定についてのガイダンスは十分であった」82.3%〔R4:78.9%〕、保護者⑨「学校のホームページなど広報活動は充実していた」84.6%〔R4:78.1%〕、保護者③「学校が出す文書・事務連絡などは適切であった」91.1%〔R4:88.8%〕、保護者②「学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けていた」73.7%〔R4:38.4%〕、保護者③「学校は教育情報について提供の努力をしている」86.1%〔R4:77.7%〕

【学校運営等】

教職員④「本校がめざす学校像を実現するために教職員は同僚性を高め協力して教育活動を行っている」84.3%〔R4:64.8%〕、教職員③「運営委員会は十分に機能している」96.1%〔83.3%〕、教職員④「本校は計画的に人材育成を行っている」72.5%〔R4:50.0%〕、教職員⑤「校内研修組織を確立し計画的に研修が実施されている」90.2%〔76.0%〕に見られるように、教職員の組織体制に

関する項目はどれも大きく上昇した。また、教職員の危機管理意識や学校としての備えや体制に関する項目については、以下のとおりほとんどの項目で前年度を大きく上回り、全項目で 90%を超える高い肯定的回答率が得られた。教職員③⑤「施設・設備については日常的に点検や管理が行われている」96.1%〔R4:80.0%〕、教職員③⑥「本校は地震や災害の際の対応を十分に知らせている」92.1%〔R4:78.2%〕、教職員③⑧「この学校はいじめ防止基本法に基づいていじめについて適切に対応している」98.0%〔R4:89.1%〕、教職員③⑨「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」96.1%〔R4:78.2%〕、教職員③⑩「学校は生徒のプライバシーや個人情報を守っている」94.1%〔R4:96.4%〕これらの項目は 100%で当然という認識を持って継続して真摯に取り組む。

【その他】

生徒④②「自分は積極的に学校美化に努めた」77.0%〔R4:72.6%〕、教職員④④「この学校では清掃が行き届いている」86.2%〔R4:65.4%〕。日頃から校舎の清掃が行き届き、ゴミや埃のない綺麗な状態を保つことは、いつの時代も同じであろう。前年度より積極的に学校美化に努める生徒が増え、清掃が行き届いていると感じる教職員が大幅に増えたことは、学校改善の大きな一歩の証だと嬉しく思う。今年度2学期から毎朝の予鈴前に校内に流れるメロディを校歌に変えたところ、いつのまにか校歌を覚え、口ずさむ生徒が一人二人と増えている。生徒、教職員に関わらず、通う学校を愛し、大切にする心の醸成が、より良い学校をつくるエネルギーの源 になると確信する。